

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和 5 年 7 月 15 日

1. 観光地域づくり法人の組織

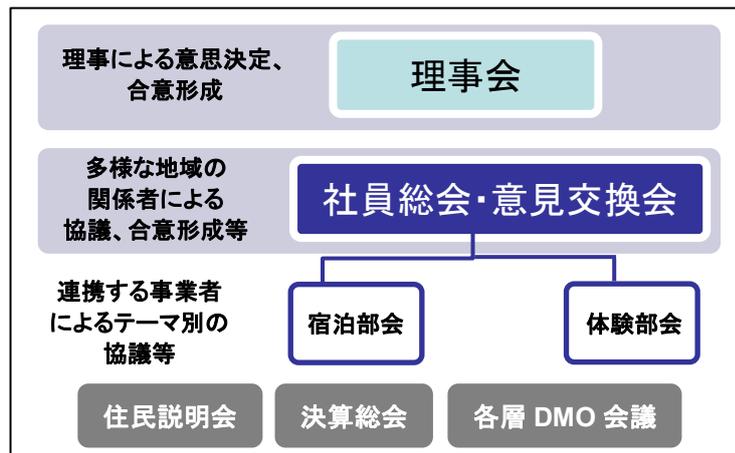
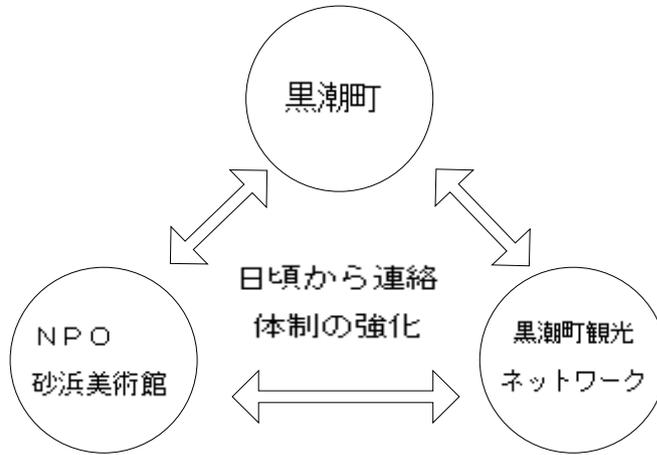
申請区分 ※該当するものを○ で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人 の名称	一般社団法人黒潮町観光ネットワーク	
マネジメント・マーケ ティング対象とする 区域	高知県幡多郡黒潮町	
所在地	高知県幡多郡黒潮町	
設立時期	平成 26 年 6 月 1 日（法人設立：令和 2 年 9 月 1 日）	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間	
職員数	4 人【常勤 4 人（正職員 3 人・出向等 1 人）】	
代表者（トップ人材： 法人の取組について 対外的に最終的に責 任を負う者）	（氏名） 森田 俊彦 （出身組織名） ネスト・ウエストガーデ ン土佐	（一社）黒潮町観光ネットワーク代表理事。宿泊 施設の経営者としての 20 年近い実績と、行政・民 間の観光関連事業者と多くのつながりを持ち、民 間の立場から黒潮町の観光推進に貢献している。
データ分析に基づい たマーケティングに 関する責任者（CM O：チーフ・マーケ ティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 高石 麻子（専従） （出身組織名） 黒潮町観光ネットワーク	（一社）黒潮町観光ネットワーク事務局長。 民間や行政で、観光関連事業を多く担当した豊富 な経験をもとにデータ収集・分析を行う。また、 旅行業取扱免許取得者でもある。
財務責任者 （CFO：チーフ・フ ィナンシャル・オフィ サー）	（氏名） 矢野 由奈（専従） （出身組織名） 黒潮町観光ネットワーク	会計・経理を担当。また、HP・SNS 等による情報発 信をするなど広報業務を行う。
各部門（企画・プロモ ーション）の責任者 （専門人材）	（氏名） 瀧本 淳平（専従） （出身組織名） 地域おこし協力隊	アミューズメントパークで 13 年間勤務。民間で培 った国内外のホスピタリティー・プロモーション に高い能力を持つ。
各部門（旅行商品の造 成・販売）の責任者（専 門人材）	（氏名） 中川 智喜（専従） （出身組織名） 黒潮町観光ネットワーク	黒潮町の観光振興の柱の 1 つに成長した防災ツー リズムの受入をしながら、町内体験プログラムの 誘客、営業を担当している。

<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>◆高知県幡多郡黒潮町 産業推進室 ・観光振興に関わる基盤整備、政策立案 企画調整室 ・行政内部の横断的推進体制の整備 ・地方創生に関する窓口 情報防災課 ・防災に関わる基盤整備、防災ツーリズム体制整備</p>				
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>◆特定非営利活動法人 NPO 砂浜美術館 ・スポーツツーリズム、ホエールウォッチング、イベント ◆一般社団法人幡多広域観光協議会 ・広域エリア（高知県西部）の観光産業の推進 ◆公益財団法人高知県観光コンベンション協会 ・県単位での観光産業の推進 ◆一般社団法人四国ツーリズム創造機構 ・四国単位での観光産業の推進</p>				
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>【該当する登録要件】① （概要）観光資源の関係者、宿泊・体験等観光施設事業者、交通事業者、農林漁業・金融・商工会を会員とし、関連観光組織及び行政等が参画している。 〔参考〕登録要件 ①取締役、理事など観光地域づくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画</p>				
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>◆観光誘客キャンペーン実施を通じた町内事業者への説明会や事業者訪問 ・高知県や黒潮町が実施するクーポン事業を通じて、黒潮町の観光地域づくり事業の説明会を実施し参画促進につなげる。 ・地域住民で構成する組織「集落活動センター」があり、地域住民として観光地域づくりに参画している。 ・町民に対し、町のケーブルテレビにて企画番組「おすすめいただけますか？」にて町内飲食事業者（内、数件は会員）の紹介を行い、その中でCMとして15秒枠で黒潮町観光ネットワーク組織や取組紹介を告知している。 （※2回放映）</p> <p>◆観光関連の専門家招致による勉強会の開催</p> <p>①調査データ・産業連関表の活用についての勉強会 （講師：高知大学地域協働学部 中澤純治 氏）</p> <p>②インバウンド（ビーガンやベジタリアン）の食に関する対応方法についての研修会（講師：フードダイバーシティ株式会社代表取締役 守護 彰浩氏）</p>				
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>【活動の概要】</p> <table border="1" data-bbox="443 1827 1420 2027"> <thead> <tr> <th data-bbox="443 1827 624 1877">事業</th> <th data-bbox="632 1827 1420 1877">実施概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="443 1888 624 2027">情報発信・プロモーション</td> <td data-bbox="632 1888 1420 2027"> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町観光推進事業・マーケティング <具体事業内容> ・一般観光プロモーション動画の作成・放映 ・観光説明会・商談会参加による主要都市圏域での営業活 </td> </tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町観光推進事業・マーケティング <具体事業内容> ・一般観光プロモーション動画の作成・放映 ・観光説明会・商談会参加による主要都市圏域での営業活
事業	実施概要				
情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町観光推進事業・マーケティング <具体事業内容> ・一般観光プロモーション動画の作成・放映 ・観光説明会・商談会参加による主要都市圏域での営業活 				

		<p>動（年6回）を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルサイネージやSNS、GoogleMyBusiness等を活用しながら口コミ等での情報発信を行っている。 ・黒潮町の観光情報を発信するHPの新規作成・開設（2023年2月15日公開(https://kuroshio-kanko.net/)） <p>※当局HPが開設し、令和5年度内に黒潮町の観光情報サイトとして完全移行し、行政HPの観光情報サイトが縮小される予定。</p> <p>※砂浜美術館のHPは、NPO 砂浜美術館の企画展や取組等を主とした内容に特化したサイトとして発信を行う。</p> <p>黒潮町観光ネットワークの新しく開設するホームページでは、町全体のコンセプトをもとにイベント・体験プログラム・観光スポット・グルメ・特産品・宿泊施設等のカテゴリー別に黒潮町全体の観光の情報発信や、町内事業者・旅行会社向けのページ等を設けて情報発信し、集客を図っていくサイトとしての役割を行うとし、砂浜美術館のHPサイトは各所関係機関とのリンクの一つとして位置づけし更新していく。</p> <p>町内の観光関連の情報を3者の中で役割分担整理をして、黒潮町観光ネットワークHPが町内の観光関連の情報発信サイトとしている。</p>
	受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ツーリズム <ul style="list-style-type: none"> ＜具体事業内容＞ <p>地区防災組織による地域防災実感プログラム、黒潮町缶詰製作所による防災缶詰プログラム・宿泊施設による夜間避難訓練プログラム等の各事業者による防災プログラムの新規造成及び磨き上げ</p> <p>受入調整対応（バス乗降駐車場の確保・実施会場等の手配）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客入込客数調査を実施（毎月） ・来町者アンケート ・受入事業者ヒヤリングを通じた要望調査
	観光資源の磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・防災プログラムや一般観光コンテンツ等のモニターツアーを実施。 ・体験プログラムの新規開発 <p>＜具体事業内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学をターゲットとした防災ツーリズムのモニターツアーの実施 ・冬の観光資源（釣り等）を活用した一般観光モニターツアーの実施 ・宿泊型夜間避難訓練プログラムの造成・販売 ・缶詰製作所の取組紹介をする防災缶詰プログラムの造成・販売 ・周遊プランの造成

	<p>【定量的な評価】 コロナウイルス感染対策を行い実施することはできたが、キャンセルも多く発生したことにより実績はコロナ禍前と比較すると大幅減となった（前年からは増）。</p> <p>◆防災ツーリズムによる参加者数 （）内…コロナによるキャンセル数 H26年度 306名→H28年度 257名→H29年度 93名→H31年度 173名（キャンセル121名）→R2年度 133名（キャンセル1,153名）→R3年度 523名（キャンセル1,836名）→R4年度 758名（キャンセル607名）</p> <p>◆一般観光受入れによる延べ宿泊数 H27年度 14,479泊 → H28年度 16,601泊 → H29年度 14,542泊 → H30年度 13,722泊 → H31年度 13,392泊 → 令和2年度 8,349泊 → 令和3年度 10,254泊 → 令和4年度 11,085泊</p> <p>◆町内イベントの来場者数 平成30年度 70,575人→平成31年度 77,552人→令和2年度 12,716人→令和3年度 14,178人→令和4年度 31,658人 ※令和3年まではTシャツアート展のみの人数。令和4年以降は町内イベント人数をカウントしていく。</p>
<p>実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</p>	<p>【実施体制の概要】 平成26年度に一次産業団体、商工会、交通機関、大学機関など多様な関係者が会員として参画する有志団体組織として黒潮町観光ネットワークを設立。 当ネットワーク事務局は、同地区で活動する町の観光戦略に基づきスポーツツーリズム・一般観光などの観光推進事業を実施。集客実績は年々増加し、飲食・宿泊とともに地域の各種事業者との接点も増え、域内循環を意識した取組を展開してきた。さらなる観光振興の柱を構築するため、農泊事業も取組み、これらの実績から、平成31年度に黒潮町観光推進業務を受託し、黒潮町観光ネットワーク専任の職員が配置され観光事業推進を行ってきた。 令和2年9月に法人登録を行い、組織体制が強化されてきたことで、これまでの黒潮町・NPO 砂浜美術館・黒潮町観光ネットワークの3者の役割の再整理を行った。 これまで観光ネットワークの事務局を担っていたNPO 砂浜美術館から、黒潮町観光ネットワークが法人化したことにより、DMO機能を黒潮町観光ネットワークに移行し、「空想（もうそう）をカタチにする町」の黒潮町の新たなコンセプトを追加し、砂浜美術館の考え方を生かした地域に特化した観光振興事業を強化させる。 3者の強力な推進体制として再構築させ、さらなる誘客促進と地域経済の活性化を図る。 ※黒潮町観光ネットワーク会員数 42 団体（2023年3月末現在）</p>

【実施体制図】 ※合意形成の仕組みが分かる詳細図表は別添 1 参照



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域設定の考え方】

申請のエリアは高知県幡多郡黒潮町であるが、事業実施においては、高知県西部の幡多地域の市町村（四万十市、土佐清水市、宿毛市、大月町、三原村）や幡多広域観光協議会との連携が重要である。

特に、宿泊に関しては黒潮町内の宿泊施設の収容人数は限られており、隣接する四万十市等との連携も重要である。

国内最大級の津波想定により建設された6基の津波避難タワー等があり、防災研修を学ぶための見学が可能となっている。

また、県立スポーツ施設がある町内をはじめ幡多エリアに点在するため広域での周遊実施も可能である。



【観光客の実態等】

令和元年度の黒潮町年間観光入込客数は100万人を超えたが、新型コロナウイルスの影響を受けた令和2年度は、約80万人に減少。令和3年度約89万人と少しずつコロナ以前の入込客数に戻ってきた。

しかし、新型コロナウイルスの影響で、旅行の実態に変化があり、旅行形態は、近隣からの訪問者が令和2年度は一人旅が20%を占め増加したが、令和3年度は減少傾向にあった。

それまでは、8割が地域内の道の駅など通過型の施設利用者であったが、コロナ禍の旅行支援等の影響により令和2年度は、高知県在住者のうち8割以上が高知市を中心とした中部からの来訪者、令和3年度は、四国内・中国地方・関西圏などコロナの状況により少しずつエリアが拡大傾向となり、域外の施設利用者が増加していった。

観光客の実態として、令和4年度は約103万人とコロナ以前の人数まで回復したといえるが、観光資源の活用としては、約80%までの回復にとどまっていることから、周遊につなげる仕組みが今後の重要な役割となってくると思われる。

平成28年に町内道の駅で実施した来訪者調査結果が通常時の傾向と考えられるが、コロナ禍における旅行形態の変容があることから、令和5年度に改めて、来訪者調査を実施する。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

※観光資源の活用方法についても記入すること。

◆自然体験

食体験：カツオのたたきづくり・天日塩づくり・田舎寿司づくり等

海体験：ホエールウォッチング・サーフィン・シーカヤック・釣り筏等

ものづくり体験：ビーチコーミング・吹きガラスづくり・若山楮和紙づくり等

◆イベント・自然 地域の自然資源を活用したイベントの開催

年間通して、自然資源を活かした下記のイベントを実施している。

※Tシャツアート展(5月)・はだしマラソン大会(5月)・

いごっそうアクアスロン大会(7月)・シーサイドギャラリー(8月)

土佐佐賀のもどりカツオ祭(10月)・潮風のキルト展(11月)・漂流物展(2月)

◆防災プログラム（津波避難タワー他）

全国最大級の津波高が想定されたこの町に、大方地区に4基、佐賀地区に2基設置されている。

そのうちの一つに国内最大級の佐賀地区津波避難タワーがあり、地区防災組織が案内するタワー見学や取組を紹介するプログラム等を行っている。また令和4年度には、缶詰製作所の講話や創作料理のワークショップをプログラムに追加し磨き上げを行い、宿泊につなげる夜間に実施する避難訓練プログラムを新規作成した。

◆スポーツ

高知県土佐西南大規模公園は、体育館やサッカー場、球技場等を有し、10数種目のスポーツを実施することができる。またスポーツ施設には砂浜が隣接し、砂浜を使ったトレーニングの実施も可能。また、スポーツ施設も幡多エリアに点在しており、広域での実施も可能である。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

- ・ホテル：町内3施設 最大180名
(ネスト・ウエストガーデン土佐、ホテルユートピア、海坊主)
- ・民 宿：町内7施設 最大125名
(民宿みやこ、民宿たかはま、民宿かじか、民宿おおまち、民宿ななさと)
- ・ゲストハウス：町内5施設 最大60名
(黒潮の家、加持ノ宿、しらたがわ、カーサグラシア、レアリスタ)
- ・民 泊：コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和2年度から現在は受入停止中。
- ・その他（地域集落が経営する集落活動センター）：町内2施設 最大85名

【利便性：区域までの交通、域内交通】

高知県西部幡多エリアへ訪れるルートは、公共交通、また2次交通の整備が充分でないことから、約70%が自動車利用である。その中でも自家用車・レンタカーの割合が多い。

【外国人観光客への対応】

- ・JNTO 認定外国人観光案内所に登録（道の駅なぶら土佐佐賀・道の駅ビオスおおがた）
- ・黒潮町の観光パンフレットの5ヶ国語対応（日本・韓国・英語・簡体語・繁体語）
- ・黒潮町の防災研修プログラムパンフレットの2ヶ国語対応（日本・英語）
- ・sunabi museumパンフレット4ヶ国語対応（日本・英語・簡体語・繁体語）

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	観光による地域への経済波及効果を測るため。	道の駅利用者やイベント会場、クーポン利用者等の来訪者へのアンケート
延べ宿泊者数（※1）	観光による地域への経済波及効果を測るため。	対象事業者からのヒアリング
来訪者満足度	リピート率向上のための方策を検討するため	道の駅利用者やイベント会場、クーポン利用者等の来訪者へのアンケート
リピーター率	効果的な営業戦略の確立と、旅行消費額の増大を図る	道の駅利用者やイベント会場、クーポン利用者等の来訪者へのアンケート

防災ツーリズム参加者数 (※2)	観光による地域への経済波及効果を測るため	黒潮町観光ネットワークを窓口とした手配数
自然体験参加者数 (※3)	観光による地域への経済波及効果を測るため。	対象事業者からのヒアリング
イベント来場者数 (※4)	観光による地域への経済波及効果を測るため。	イベント会場でのカウント
スポーツ合宿大会の宿泊者数	観光による地域への経済波及効果を測るため	宿泊手配数のヒアリング

- (※1) 黒潮町内の 15 施設 (カーサグラシア・ビックマリーンを除く)
 (※2) 防災研修プログラム(防災学習・津波避難タワー見学・地域防災実感プログラム・防災缶詰プログラム・夜間避難訓練プログラム等)
 (※3) 天日塩づくり体験・カツオのたたき作り体験・吹きガラス体験・ホエールウォッチング・ビーチコーミング・若山楮紙漉き体験等
 (※4) Tシャツアート展(5月)・いごっそうアクアスロン大会(7月)・シーサイドギャラリー(8月)・土佐佐賀のもどりガツオ祭(10月)・潮風のキルト展(11月)・漂流物展(2月)等

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

黒潮町では、近年増加傾向にあったスポーツツーリズムを町の成長産業と位置付け、町内における消費活動の拡大につながる取組を展開している。

一般観光についても、町のシンボルの一つであるカツオや、海・山・川に恵まれた豊かな自然環境を活かした誘客を強化し、また、過去何度も津波に襲われているこの土地で、自然と共存している黒潮町ならではの、「防災(ストーリー)」を新たな観光資源と捉え、観光商品の企画・立案を進めて新たな観光産業とし、防災ツーリズムを推進している。

こうした観光振興の取組を、様々な観光関連事業を実施している黒潮町と NPO 砂浜美術館とで連携しながら推進し、一般観光客やスポーツ客、防災ツーリズム客、教育旅行客の誘客を図ることで、地域への経済波及効果を高めていくこととする。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ・ 日本一の防災対策施設 ・ 充実したスポーツ施設 ・ 広大な砂浜や松原などの自然環境 ・ 砂浜美術館という考え方(コンセプト) ・ カツオに代表された食の豊かさ	弱み (Weaknesses) ・ 少子高齢化による人口減と産業の衰退 ・ アクセスの悪さ (空港から 1.5 時間・限定的な二次交通) ・ 天候に左右される観光コンテンツ

外部環境	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路の延伸 ・南海地震対策によるプラスイメージ ・NHK「らんまん」で見込まれる高知県観光客の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフの地震津波情報による自然災害とマイナスイメージ ・貸切バス代金の高騰（燃料代も含む）

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第1ターゲット層 視察・研修・教育旅行者
○選定の理由 ※4. 戦略（１）・（２）の分析を踏まえたターゲット層の設定であることを説明すること。 2012年内閣府が、南海トラフ大地震が発災時に最大34mの日本一の津波高が想定されることを公表した。その後の防災対策等により、黒潮町では防災に関する視察が増加し行政対応が困難となり、地区防災組織が研修等の受入れを行い、防災プログラムの新規商品造成を行ったことにより受入客数の増加が見られたため強化していく。 H25年以前：行政による無料対応→H26年度：306名（予約数不明）→H28年度：257名（予約数不明）→H29年度：93名（予約数不明）→H31年度：173名（予約数9件294名）→R2年度：133名（予約数23件1286名）→R3年度：523名（予約数62件2359名）→R4年度：758名（予約数56件1607名） 防災を新たな観光資源として捉えた取り組みを進めている。被災地としての防災ツーリズムではなく、「災害に備える」視点で「人と自然のつきあい方を考える」防災プログラムは、他地域にはない差別化できる取組である。また、自然の脅威と恵みの2面性を体感するものとして、他の自然体験プログラムとの組み合わせによって、提案の幅が広がる。
○取組方針 すでに訪れている視察団体を取りこみながら、広報ツールを作成（Web・パンフレット）。企業、教育旅行を中心とした旅行エージェントに対してプロモーションを行う。また、自然体験や食事等町内周遊観光を促す。
○第2ターゲット層 自然体験を求める子ども連れファミリー層
○選定の理由 黒潮町への訪問属性ではファミリー層が多く（36.2%）、高知県を訪れるファミリー層の目的は自然を求める割合が高いため、黒潮町の強みである自然環境や自然を活かした体験（かつおのたたきづくり、ホエールウォッチング等）をファミリー層に訴求していく。
○取組方針 特に、高知県として展開している各種キャンペーンや、高知関西連携強化戦略の流れをうまく活用する。季節に応じた体験プログラムを造成し通年の受け入れを行う。
○第3ターゲット層 女性層・カップルなどの若年層
○選定の理由 黒潮町への訪問属性では夫婦・カップルの割合も高く、町で最も集客のあるイベント「Tシャツアー

<p>ト展」の若年層女性認知度は、同年代男性と比較して2倍以上になっている。また、古民家ゲストハウスやグランピング施設等の開設によりインスタを活用している若年層に誘客を図る。</p> <p>○取組方針 SNS・口コミが大きな広報媒体となるターゲット層であり、これを活用する。</p>	
<p>○第4ターゲット層 外国人旅行者</p>	
<p>○選定の理由 全国的に外国人旅行者の地方部への宿泊者数が2016年より2019年にかけて増加しており、四国内・高知県においても同様に年々増加している。また、ホエールウォッチングに関しては天候等の欠航によるキャンセルはあるものの、外国人乗船客も増えてきている。2020年度以降はコロナ禍で全く動きがなかったが、コロナ終息後の今後は再度、伸びが予想される。</p> <p>○取組方針 外国人旅行者の中でもターゲットを絞った取組（ホエールウォッチング、防災ツーリズム等）を軸とした誘客を図る。</p>	
<p>○第5ターゲット層 スポーツツーリズム客（サッカー・野球・ゴルフ等の小学生～大学生（団体）、社会人チーム）</p>	
<p>○選定の理由 高知県立土佐西南大規模公園内において、平成29年7月には人工芝グラウンドが開設されたことにより、近範囲内で天然芝2面・人工芝2面の利用が可能になったことは四国内でも他にない環境であるため、充実したスポーツ施設利用への来訪が増加傾向にある。 コロナ以前から2019年は前年度比の16%増。年々増加傾向にあったが、2020年からコロナ禍となり、合宿大会ノ受入の中止・縮小となり、前年度比の74%まで減少した。 しかし、コロナ対策を実施しながらの誘客を行ったことで、2021年は前年度比32%増まで回復。今後も、対策を行いながら現存する多様なスポーツ施設を活用し、一般観光客のオフシーズン対策（冬季）として積極的に誘客する。また、そして、暖かい気候を強みとして冬場（12～2月）の誘客が可能であり閑散期対策にも有効である。</p> <p>○取組方針 サッカーに関しては、地域の宿泊施設のキャパシティーより多くの人たちに利用してもらう為、グラウンドの過度な利用制限を行わない。よって、アマチュアレベルでの誘客を基本とした取組みを行っているが、現状の環境でも可能なプロチームの受入も検討。コロナ前の受入の回復と消費単価を上げるために防災プログラムや自然体験プログラムも取り入れ誘客を図る。</p>	

（4）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	<p>長さ4kmの入野海岸を美術館に見立て、今まで当たり前として見過ごしてきた風景や、日常の一コマの一つ一つを「作品」としてとらえ、考え意識する（思想）「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」を基本コンセプトとし、「空想（もうそう）をカタチにする町・まちそのものがミュージアム」を新たなコンセプトとして展開する。</p>
--------	---

②コンセプトの考え方	<p>このコンセプトを黒潮町全体の観光振興のコンセプトとして活かし、町全体を美術館に見立て、継続した取り組みにより認知度を高め、他と差別化する。また、黒潮町にある豊かな里山・川・海、カツオや天然調味料である入野砂糖や天日塩等の豊かな食、土佐西南大規模公園内のサッカーグラウンドや野球場等のスポーツ施設が充実した設備環境、世界の文化財を守る若山楮和紙文化や命を守る防災思想文化、ホエールウォッチングやサーフィン、シーカヤックなどマリナクティビティーやカツオのタタキ体験など、様々な地域資源を黒潮町全体の「町」そのものを大きな美術館と捉え、空想をカタチとした砂浜美術館として「砂浜美術館の作品」「黒潮町の作品」とする。コンセプトに基づいて、その観光資源のストーリーをしっかりと伝えることで誘客を図る。</p> <p style="text-align: center;">黒潮町の観光資源＝「砂浜美術館の作品」、「黒潮町の作品」 (※作品としてのストーリーを伝える)</p>
------------	--

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	※戦略の共有方法について記入すること ①黒潮町観光政策会議（毎月1回開催） 黒潮町・NPO 砂浜美術館・黒潮町観光ネットワークの3者で進捗管理や方向性について協議 ②黒潮町観光ネットワーク理事会（年4回程度）・総会（年1回）・全体意見交換会（年1回）を実施 5/17 総会・意見交換会・理事会、7/14 理事会、11/17 理事会、3/23 理事会
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・利用客からのアンケート調査を通じて得た情報を各施設にフィードバックする。 ・観光関連事業者のヒアリング調査を実施 ・黒潮町観光ネットワーク社員(会員)からの要望に応じた勉強会、研修会の開催によって、サービス維持に努める。 ・テーマ別のモニターツアーを実施し参加者から意見集約し観光関連事業者へフィードバック
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	防災ツーリズム・一般観光・団体旅行等のワンストップ窓口を担い、地域の周遊促進・観光情報の提供・手配等を行う。また、道の駅ビオスおおがた情報館にインフォメーションがあり、スポーツ・ホエールウォッチング・観光振興イベント等の観光情報の周知も行う。 ・観光公式サイトの新規立ち上げ（令和5年2月）、また効果的なプロモーションとしてSNSを活用した情報発信を行う。 ※黒潮町観光ネットワークとNPO 砂浜美術館は、同じ事務所で業務を行っており、日々情報共有に努めている。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●旅行消費額 (円/人)	目標	3,440 (-)	3,473 (-)	3,507 (-)	3,541 ()	3,576 ()	3612 ()
	実績	3,732 (-)	4,232 (-)	3,684			
○旅行消費額 (円/人) B. 宿泊あり	目標	12,445 (-)	12,568 (-)	12,692 (-)	12,818	12,946	13,075
	実績	12,513 (-)	14,411 (-)	7,464			
●延べ宿泊者数 (人)	目標	24,497 (-)	24,786 (-)	24,883 ()	24,981 ()	25,078	25,329 ()
	実績	12,393 (-)	16,355 (-)	22,803 ()	()		
●来訪者満足度 (%)	目標	90%以上 (0)	87%以上 (-)	88%以上 ()	89%以上 ()	90%以上	91%以上 ()
	実績	87 (0)	86 (-)	83			
●リピーター率 (%)	目標	51%以上 (-)	52%以上 (-)	53%以上 ()	54%以上 ()	55%以上	56%以上 ()
	実績	51 (-)	86 (-)	63 ()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

旅行消費額については、地元大学機関に協力を得て調査を行う。来訪者満足度とリピーター率は、これまで観光振興の柱になっているスポーツツーリズムに焦点をあて数値設定したが、令和2年度からは一般観光についても取り入れた。

【設定にあたっての考え方】

- 旅行消費額：商工会等と連携し地域内商店での消費額増を考える。2018年度比で1%ずつ増加
.....
- 延べ宿泊者数：現在減少傾向にある一般観光の宿泊者数を1%増加に転じ、スポーツツーリズムでの宿泊増加分を上乗せしていく。視察研修・修学旅行による一般観光・教育旅行等の宿泊増を検討していく。
.....
- 来訪者満足度：観光キャンペーン等により来町する一般観光客を対象にアンケート調査を実施。各観光関連施設での満足度アンケート項目の数値を目標値として設定する。基本的には、観光キャンペーン等の有無に関わらず、常設プログラムや新規プログラム等の磨き上げにより、高い満足度を維持して行くことを基本とし、前年度比の1%増で設定する。
.....

- リピーター率：令和2年度のアンケート調査結果51%を基本数値として、目標設定を1%増で上乗せしていく。現在、黒潮町の観光振興の柱に加わった黒潮町防災ツーリズムにも焦点をあて、閑散期の来訪者数の向上を目指す。また、旅行会社からの集客にも力を入れリピート率を伸ばす。

(2) その他の目標

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●防災ツーリズム参加者数(人)	目標	525 (設定なし)	656 (設定なし)	820 (設定なし)	1025 (-)	1280 (-)	1025 (-)
	実績	258 (0)	679 (0)	759 (0)	()	()	()
●自然体験参加数(人)	目標	5,059 (-)	5,210 (-)	5,320 (-)	5,430 ()	5,540 ()	5,650 ()
	実績	2,662 (0)	4,200 (0)	4868 ()	()	()	()
●イベント来場者数(人)	目標	50,000 (-)	50,000 (-)	50,000 (-)	65,000 ()	80,000 ()	65,000 ()
	実績	12,716 (-)	14,178 (-)	31,658 (-)	()	()	()
●スポーツ合宿大会の宿泊者数(人泊) ※町外泊含む	目標	15,000 (-)	15,000 (-)	15,000 ()	15,000 ()	15,000 ()	15,000 ()
	実績	4,840 (-)	7,708 (-)	11,734 (-)	()	()	()
●WEB閲覧数(pv)	目標	- (-)	- (-)	- (-)	50,000 (-)	100,000 (-)	50,000 (-)
	実績	- (-)	- (-)	- (-)	()	()	()

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

行政と一体になった取組を推進していくため、黒潮町が策定する「黒潮町総合戦略アクションプラン」の計画と整合性をもった設定とする。

【設定にあたっての考え方】

●防災ツーリズム参加者数

令和元年より防災ツーリズムの窓口の一元化、防災プログラム商品の増加に伴い、年間2,000人を令和8年度での達成目標とする。

令和元年より新型コロナウイルス感染症の影響でキャンセルが多く発生したため未達成であるが、防災ツーリズム検討会にて事業関係者として協議しながら目標設定している。

旅行消費額をあげるために海の恵み体験として自然体験や食事等と合わせて推進する。

●自然体験参加者数

現在、体験プログラムの柱となるホエールウォッチングとカツオのたたきづくり体験を中心にアクションプランをたて、近年増加傾向にある防災研修との周遊プランによる全体への波及を含め数値設定し、その増加分を加算している。

●イベント来場者数

町内イベントとして砂浜美術館での開催の他、佐賀地区を含む町内の観光イベントの来町者数として、コロナ以前の来場者数への回復と達成を目標とし、この 80,000 人の旅行消費額を増加させるためのしかけを考える。

●スポーツツーリズム参加者数

現在の施設、受入体制を考え、年間 15,000 人泊を維持した目標とする。事業関係者が参加する黒潮町スポーツ推進会議で目標設定している。また、宿泊施設の旅行消費額や満足度、地域調達率の向上を意識した受入を強化し、社会人・プロモカテゴリーとして検討する。

●WEB 閲覧数

黒潮町の観光情報から観光情報サイトの移行を行っており、新たな情報発信ページとして令和 4 年度（2023 年 2 月）に新たに開設した。現在、町の観光情報ページの PV 数を基に、令和 8 年には 20 万 PV となるよう単年度目標を設定。町内の体験や宿泊などの観光情報を一元化しながら効率よく情報発信し誘客につなげる。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳(具体的に記入すること)
2020(R2)年度	25,953(千円)	【会費】 133千円 【黒潮町・委託金】 25,035千円 【高知県・補助金】 750千円 【その他収入】 35千円
2021(R3)年度	20,662(千円)	【会費】 55千円 【黒潮町・委託金】 20,422千円 【その他収入】 185千円
2022(R4)年度	36,000(千円)	【会費】 127千円 【黒潮町・委託金】 29,354千円 【観光庁・補助金】 6,343千円 【その他収入】 176千円
2023(R5)年度	26,083(千円)	【会費】 133千円 【黒潮町・委託金】 25,300千円 【その他収入】 650千円
2024(R6)年度	26,083(千円)	【会費】 133千円 【黒潮町・委託金】 25,300千円 【その他収入】 650千円
2025(R7)年度	26,083(千円)	【会費】 133千円 【黒潮町・委託金】 25,300千円 【その他収入】 650千円

(2) 支出

年(年度)	総支出	内訳(具体的に記入すること)
2020(R2) 年度(4~8月) ※実績	4,254(千円)	【一般管理費】 2911千円 【パンフレット作成費】 357千円 【コロナ対策事業費】 701千円 【その他諸経費】 283千円
2020(R2)年 度(9~翌3月) ※実績(一社)	11,577(千円)	【一般管理費】 5,690千円 【動画放映費】 477千円 【アドバイザー費】 1,420千円 【コロナ対策事業費】 3,248千円 【その他諸経費】 738千円
2021(R3) 年度	19,407(千円)	【一般管理費】 10,601千円 【モニターツアー費】 357千円 【動画放映費】 550千円 【パンフレット作成費】 119千円 【アドバイザー費】 231千円 【コロナ対策事業費】 6,758千円 【その他諸経費】 791千円
2022(R4) 年度	34,911(千円)	【一般管理費】 12,200千円 【モニターツアー費】 786千円 【HP・動画作成費】 3,924千円 【動画放映等広告費】 506千円 【パンフレット作成費】 1,130千円 【おもてなし事業費】 586千円 【DMO事業費】 125千円 【アドバイザー費】 430千円 【コロナ対策事業費】 6,908千円 【観光庁事業】 6,343千円 【その他諸経費】 1973千円
2023(R5) 年度 ※予定	26,075(千円)	【一般管理費】 13,360千円 【モニターツアー費】 700千円 【HP管理費等】 700千円 【動画放映等広告費】 750千円 【パンフレット作成費】 2,400千円 【おもてなし事業費】 900千円 【アドバイザー費】 440千円 【DMO事業費】 550千円 【大学連携強化費】 450千円 【コロナ対策事業費】 2,150千円 【その他諸経費】 3,683千円
2024(R6) 年度	24,000(千円)	【一般管理費】 13,360千円 【モニターツアー費】 700千円 【HP管理費等】 700千円 【動画放映等広告費】 750千円 【パンフレット作成費】 2,400千円

		【おもてなし事業費】 900 千円 【アドバイザー費】 440 千円 【DMO 事業費】 550 千円 【大学連携強化費】 450 千円 【その他諸経費】 3,750 千円
2025 (R7) 年度	24,000 (千円)	【一般管理費】 13,360 千円 【モニターツアー費】 700 千円 【HP 管理費等】 700 千円 【動画放映等広告費】 750 千円 【パンフレット作成費】 2,400 千円 【おもてなし事業費】 900 千円 【アドバイザー費】 440 千円 【DMO 事業費】 550 千円 【大学連携強化費】 450 千円 【その他諸経費】 3,750 千円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・観光調査、設計、戦略策定、プロモーション等について行政からの委託事業の確保
- ・現在実施している防災ツーリズムによる手配業務の取扱の増加
- ・体験プログラムを軸とし新たな旅行商品の企画造成や周遊促進、販売による自主財源の確保

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

高知県黒潮町では、町の観光振興を NPO 砂浜美術館、黒潮町観光ネットワークと連携して進めており、3 団体で月 1 回の観光政策会議を実施し、情報共有しながら観光振興を推進している。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携 DMO (県単位以外) や地域 DMO と重複する場合の役割分担について (※重複しない場合は記載不要)

【他の地域連携 DMO や地域 DMO との間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った (行っている) か】

幡多広域観光協議会において担当者会を行い情報共有を行いながら役割分担を明確にし行っている。また、スポーツツーリズムや教育旅行など各部門で意見交換を行いながら進めている。



【区域が重複する背景】

前地域 DMO である NPO 砂浜美術館による県立施設を活用したスポーツ合宿や大会の誘致により高知県西部においてのスポーツツーリズムが実施されている。その中で、市町村をまたぐ大会・合宿の一元化や情報発信を地域連 DMO である幡多広域観光協議会が行っている黒潮町観光ネットワークとしては、スポーツツーリズムの一般観光や防災ツーリズムとのつながりを主軸として町内周遊を促進し、黒潮町のコンセプトに基づきながら、町内事業者からのヒアリングやマーケティングを行い、町内の観光資源を生かした観光地域作りを推進する。

【重複区域における、それぞれのDMOの役割分担について】

地域連携DMOである(一社)幡多広域観光協議会では、主に高知県西部の市町村(黒潮町を含幡多エリアの6ヶ市町村)で各市町村が持つ観光コンテンツを組み合わせた6ヶ市町村をまたぐ教育旅行等を、幡多広域観光協議会が中心となり各市町村と連携しながら実施している。また、県立スポーツ施設を活用したスポーツツーリズムの情報の一元化を行いながら6ヶ市町村をつなぐ地域作りを行う。

また、黒潮町観光ネットワークにおいては、町内事業者からのヒアリングやマーケティングを行いながら、町内の観光資源を生かし一般観光客や防災ツーリズム客などの一般団体等を中心に誘致し町内周遊観光につなげている。教育旅行に関しては、防災ツーリズムの活用を促しながら観光地域づくりを行う。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

町内コンテンツに限らず広域での団体の呼び込みを区域エリアでのコンテンツを交えて誘致することで誘客につながり効果を期待できる。

また、宿泊や体験等それぞれの誘客コンテンツを活かしながら広域エリアで周遊することで観光地域選定のきっかけを作る機会を増やすことができる。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	高石 麻子
担当部署名(役職)	事務局長
郵便番号	789-1911
所在地	高知県幡多郡黒潮町浮鞭 3573-5
電話番号(直通)	0880-43-0881
FAX番号	0880-43-1527
E-mail	info@kuroshio-kanko.net

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	黒潮町
担当者氏名	福岡和加
担当部署名(役職)	産業推進室観光係 係長
郵便番号	789-1931
所在地	高知県幡多郡黒潮町入野 5893 番地
電話番号(直通)	0880-43-2113
FAX番号	0880-43-2788
E-mail	10280020@town.kuroshio.lg.jp

記入日: 令和5年7月15日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

高知県幡多郡黒潮町

【設立時期】平成26(年6月1日 (法人設立日:令和2年9月1日))

【設立経緯】

体験・宿泊等観光関連事業者、飲食店、交通事業者、金融機関、行政等約40団体が参画する(一社)黒潮町観光ネットワークで合意形成を行い、連携を取りながら観光推進するために新設。年6回程度の理事会や総会等の全体会などで議論する。

【代表者】森田 俊彦

【マーケティング責任者(CMO)】高石 麻子

【財務責任者(CFO)】矢野 由奈

【職員数】4人(常勤4人:正職員3人・出向等1人)

【主な収入】

委託事業(黒潮町観光推進事業等)3千万円 会費13万、他(R4年度決算)

【総支出】

34百万円(事業費20百万円、一般管理費14百万円)※R4年度決算

【連携する主な事業者】

- ・(特非)NPO砂浜美術館・一般社団法人幡多広域観光協議会
- ・公益財団法人高知県観光コンベンション協会
- ・一般社団法人四国ツーリズム創造機構

KPI(実績・目標)

※()内は外国人に関するもの。

項目		2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年
旅行消費額 (円)	目標	3,440 ()	3,473 ()	3,507 ()	3,541 ()	3,576 ()	3,612 ()
	実績	3,732 ()	4,232 ()	3,684 ()	—	—	—
延べ 宿泊者数 (人)	目標	24,497 ()	24,786 ()	24,883 ()	24,981 ()	25,078 ()	25,329 ()
	実績	12,393 ()	16,355 ()	22,803 ()	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	90%以上 ()	87%以上 ()	88%以上 ()	89%以上 ()	90%以上 ()	91%以上 ()
	実績	87 ()	86 ()	83 ()	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	50%以上 ()	52%以上 ()	53%以上 ()	54%以上 ()	55%以上 ()	56%以上 ()
	実績	51 ()	86 ()	63 ()	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

- ①視察、研修、教育旅行の団体
- ②防災研修の団体(中高等学校・大学・防災関連団体等)
- ③自然体験を求める家族
- ④インバウンド
- ⑤スポーツ団体

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ①防災を観光資源とし、団体研修・視察の受入れを行う。
- ②黒潮町への訪問属性で37%を占めるファミリー層に訴求
- ③多言語化
- ④スポーツツーリズム団体の周遊利用誘致。

【観光地域づくりのコンセプト】

空想(もうそう)をかたちにする町 黒潮町 町そのものがミュージアム

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・防災ツーリズムの防災プログラムメニューの新規開発や磨き上げ
- ・体験プログラム新規商品造成

【受入環境整備】

- ・スポーツ施設周辺のトイレの改修や、球場等の設備の充実を推進
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のための受入ガイドラインの運用
- ・宿泊施設

【情報発信・プロモーション】

- ・観光コンテンツのPR動画作成
- ・ターゲットエリアでのPR(動画活用等)強化
- ・OTAやロコミサイトの活用
- ・防災研修を核とした防災ツーリズムの拡充
- ・スポーツ関係者ネットワークの拡充
- ・周遊観光のセールスツールの作成
- ・観光公式サイトの開設・運営管理

【その他】

- ・旅行サービス手配業を通じた集客

